

総事業費	3,610千円
交付金額	2,707千円

地域女性活躍推進交付金(相談支援事業)【五島市】

地域の実情と課題

五島市は島という特異性から、転勤等が多い。その多くが島の暮らしに馴染めず、島外の親族・知人等を休日に訪れリフレッシュして島に戻ってくるという生活を送っている人も多い。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、島外への移動制限があり、リフレッシュできず、孤独・孤立に陥ったケースがある。また、島外で就労していたが、新型コロナウイルスにより職を失い地元へ帰省するも、職が見つからず、人間関係も上手く構築出来ず引きこもってしまったケースもある。本市は二次離島を多く抱える他、公共交通機関が不便な地区もあり、そのような地域で職を失い収入がなく、孤独・孤立に陥っているケースがある。

目的・目標

○コミュニティカフェ事業
 連携機関への繋ぎ率の目標値が90%に対し、68.1%
 相談者(連携数90件/相談者132名)
 ・意識改革の目標値が85%に対し、24.2%
 相談者(32名/132名)

事業の特徴

○コミュニティカフェ事業
 島内中心部に「ありとあらゆる女性」が気軽に立ち寄れる居場所を平日9時~16時に開放し、相談者同士のネットワークを構築。有効利用出来る施策の紹介、連携機関へ繋いだカフェで集約、発掘、洗い出しされたカフェへ来店が困難な方宅等へ、電話・メールでの相談、希望に応じての家庭訪問等を実施した。就職希望者をハローワーク等へ斡旋し、必要に応じ同行支援した。

連携団体

- 五島市社会福祉協議会
- 五島市商工会、
- 福江商工会議所
- 市役所各課
- 五島保健所
- 医療機関
- 五島税務署
- 弁護士/家庭裁判所
- 五島警察署
- ファミリーサポートセンター
- ネウボラごとう
- 社会保険事務所
- 民間
- 若者サポートステーション
- ハローワーク

事業の効果

○コミュニティカフェ事業:相談来所人数のべ321名(相談者132名)。電話/メール相談はのべ67名。90件の悩みについて連携機関等に同行支援等を実施。

今後の課題

○コミュニティカフェ事業:子育てで孤立している方が、市の相談機関の存在を知らず、知っても生きづらいという現状があった。相談機関の戦略が必要となる。
 連携機関を紹介しても、利用者が納得できない事例も多々あった。島という閉塞地でニーズに応えられる期間が不足している。

コミュニティカフェ事業

らしさLaboってどんな場所？
ありとあらゆる女性のお悩みに寄り添う総合窓口です。気軽に立ち寄りください。

ご希望の場所へ出張相談できます！

こんなお困りごとはありませんか？

- 女性特有の体の不調
- パート・アルバイトの悩み
- 人間関係がづらい
- 子育ての悩み
- お金の悩み

「ただただ誰かに話を聞いてほしい」「どこに相談したらいいかわからない」「行政機関に相談するにはハードルが高い」「せまい場なので誰にも知られたくない」

相談者さんの声

相談員からのメッセージ

ふれあいに寄り添う女性のための施設があります

「かけこみ相談所らしさLabo」来所相談人数のべ
321名

うち電話／メール相談67名

【連携状況】

民間:29件、市役所各課:24件、商工会よろず:
17件、ハローワーク:4件、ファミリーサポートセン
ター:4件、子育て支援事業所3件、ネウボラ五島
:2件、弁護士／家庭裁判所:2件、若者サポ
ーステーション:1件、保健所:1件、医療機関:1件、
税務署:1件、警察:1件
合計:90件

○事業内容

- ・平日にコミュニティカフェを開き、相談者の話に傾聴する気さくな相談員を配置
- ・カフェに来店できない方への電話・メールでの対応や発掘、洗い出し
- ・自発的にカフェに来店が困難な方への訪問相談
- ・各連携機関への紹介

